

2022 年度  
事業報告書

2022 年 4 月 1 日から  
2023 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団



## 目 次

### 【総合活動】

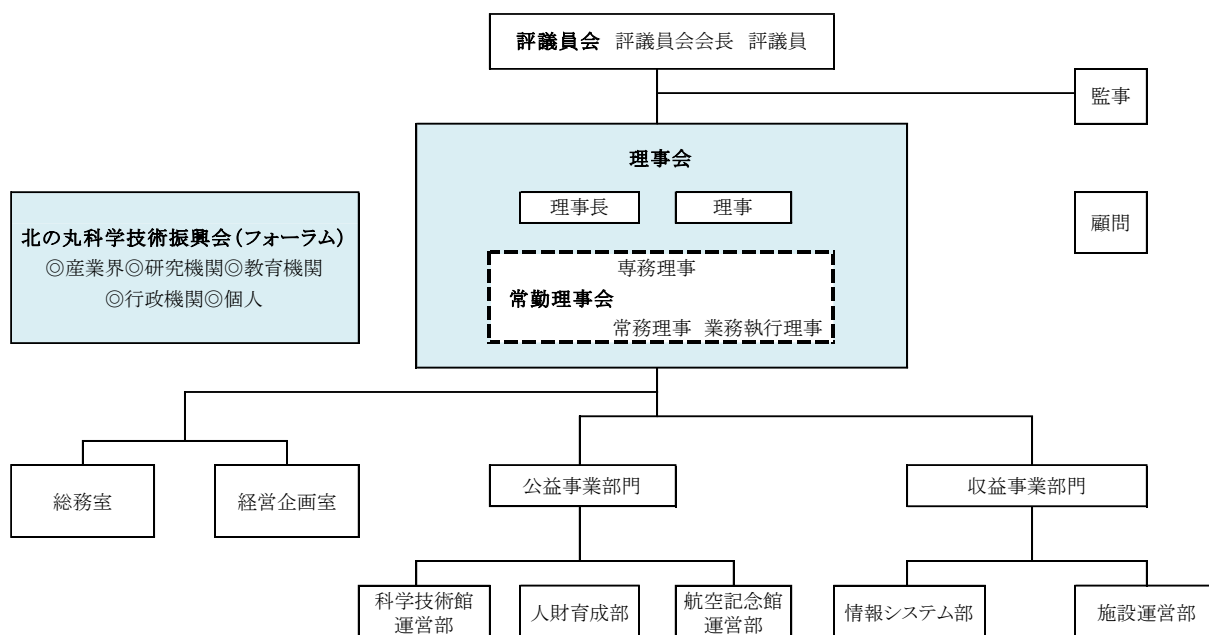
1. 当財団の組織	1
2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担	1
3. 会議の開催	2
4. 対外機関との連携活動	3
5. 組織内の活動	3
6. 広報活動	3
7. 新型コロナウイルス等感染症対策について	4

### 【事業活動】

I. 科学技術振興事業	5
1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援	5
2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催	15
3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究	21
II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	21
III. 科学技術館施設の利用促進事業	24
IV. 補助を得て実施する事業	24
V. 助成を得て実施する事業	24

[総合活動]

1. 当財団の組織 (2022年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2021年3月31日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
榊原 定征	代表理事	理事長	法人代表
吉田 忍	代表理事	専務理事	法人代表 財団経営全般 航空記念館運営部担当 所沢航空発祥記念館館長 (兼)
新元 一弘	業務執行理事	常務理事	財団経営全般 (専務理事補佐) 情報システム部担当 (兼) 施設運営部担当
水木 達郎	業務執行理事	常務理事	経営企画室担当 科学技術館リニューアル・構造改革担当
若林 光次	業務執行理事	理事	人財育成部担当 人財育成部部長 (兼)
榊水 久恒	業務執行理事	理事	総務室担当 科学技術館建屋改修担当
湯浅 孝	業務執行理事	理事	科学技術館運営部担当 科学技術館運営部長 (兼)

### 3. 会議の開催

#### (1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

##### ①第12回定時評議員会 2022年6月20日

議案1. 2021年度の決算書類の承認の件

議案2. 評議員選任の件

議案3. 理事選任の件

##### ②第13回臨時評議員会 2023年3月9日

議案1. 理事選任の件

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

#### (2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

##### ①第21回通常理事会 2022年6月3日

議案1. 2021年度の事業報告及び決算書類の承認の件

議案2. 定時評議員会の招集の件

議案3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

議案4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案5. 役員賠償責任保険（D&O保険）の契約の件

議案6. 2022年度補助・助成事業実施に関する件

##### ②第22回書面理事会 2022年2月17日

議案1. 重要な使用人の選任の件

##### ③第23回書面理事会 2023年2月16日

議案1. 臨時理事会の招集について

##### ④第22回通常理事会 2023年3月9日

議案1. 2023年度事業計画及び予算書等の承認の件

議案2. 特定費用準備資金等の保有に関する一部計画の変更の件

議案3. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案4. 役員賠償責任保険（D&O保険）の契約の件

議案5. 2022年度資金調達の見込みについて一部変更の件

○上記の理事会（書面理事会を含む）に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

#### (3) 常勤理事会の開催

定款第41条第2項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月2回（原則）、常勤の理事6名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付している。

## 4. 対外機関との連携活動

### (1) 北の丸科学技術振興会

北の丸科学技術振興会会員に対し財団の活動報告を行うとともに、財団広報誌において会員企業の社会貢献活動を紹介することにより、既存の51会員を維持し、新規に5会員を獲得しました。

### (2) 各種外部企業・団体との連携活動

北の丸科学技術振興会の既存会員を除いた約20の外部企業・団体に対し、将来の連携活動を想定した関係作りを行いました。

## 5. 組織

### (1) 各部との事業連携・人材育成

中期経営計画を浸透させるため、経営層と従業員の対話の場としてタウンホールミーティングを開催し、業務や職場全般についての議論や意見交換を行いました。

## 6. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動として、プレスリリースの配信、広報誌「JSF TODAY」の発行、SNSやメール配信を行いました。

### (1) プレスリリースの配信

- ①災害に備えるために、気象を知ろう！「学ぼう！ 気象⇔防災～北の丸気象講座～」(6月)
- ②見破れるか？昆虫の生き残りをかけた高等戦略「ダメして生き延びる 昆虫の擬態」海野和男昆虫写真展(6月)
- ③日本の科学教育の輪を広げて30周年！国内最大級の科学体験イベント「青少年のための科学の祭典2022 全国大会」(7月)
- ④気象を知り、災害に備える！科学技術館2022年夏休み特別展「学ぼう！ 気象⇔防災」(7月)
- ⑤科学技術館 航空宇宙STEMワークショップ ～ 飛べ！ 跳べ！ 翔べ！ ～(9月)
- ⑥パズルのプロが集結 家族みんなでパズろう！ 第9回東京パズルデー2022 in 科学技術館(11月)
- ⑦知って備える！「学ぼう！気象⇔防災～北の丸気象講座～」(12月)
- ⑧2022年度放射線教材コンテスト受賞作品の結果発表 および 「放射線教育発表会」の取材依頼について(お願い)(12月)
- ⑨新展示室「サウンド」誕生 ジャンボ・ピアノをステップ演奏！！～耳に聞こえるだけでない、音が描き出す“すがた”を見てみよう！～(2月)

### (2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行しました。

- ①No. 164 「自転車は楽しい！」(4月発行)
- ②No. 165 「巡回展示物、貸し出します」(7月発行)

③ No. 166 「館に賑わいが戻ってきた！」(10月発行)

④ No. 167 「STEM教育～学びの粋をこえていこう」(1月発行)

発行部数 各1,000部

### (3) SNSやメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報をTwitterなどのSNSやホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信しました。

#### ①Twitterによる情報発信

4月1日から3月31日まで155ツイート フォロワー数4,311人(4月5日現在)

#### ②メールマガジンによる情報発信

798号(4月20日)から809号(3月15日)まで12号配信。配信数11,017通(3月15日現在)

## 7. 新型コロナウイルス等感染症対策について

2020年度より蔓延している新型コロナウイルスの感染症への対策を評価し、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を行いました。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館である様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底しました。

[事業活動]

## I. 科学技術振興事業

### 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

#### 1-1. 科学技術館の運営事業

2022年度は、年間を通じて新型コロナウイルス感染症の拡大などによる臨時休館がなく、当初予定通り開館することができた。

日本博物館協会のガイドラインに沿いながら、GW前の4月下旬には1日の最大受入れ入館者数を2,000人に引き上げ、また9月からは入館者予約の撤廃など、最大限の来館者受入れができるよう、施策を実施した。

#### ■入館者状況

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が夏時期及び2023年1月頃にあったが、年間を通じて臨時休館などの影響はなく、入館者数は約31万2千人となった。2021年度に引き続き団体見学件数の増加、土日祝における個人入館者の増加が主な要因となり、2021年度比171.7%と入館者数は大幅な増加となった。

#### <入館者状況比較>

	2022年度(人)	2021年度(人)	2022/2021 (%)
4月	20,820	8,126	256.2
5月	25,836	0	-
6月	30,516	9,744	313.2
7月	36,483	15,446	236.2
8月	22,982	12,450	184.6
9月	20,425	8,661	235.8
10月	21,115	16,433	128.5
11月	30,911	28,056	110.2
12月	26,218	25,728	101.9
1月	23,253	16,103	144.4
2月	30,230	16,206	186.5
3月	23,138	24,731	93.6
累計	311,927	181,684	171.7



## (1) 参加体験型展示、ワークショップの開発・改良、特別展・イベントを積極的な実施

### ①新規出展誘致および既存展示のリニューアル

#### 1) 今後の展示更新の中期的方針

産業センター出展の積極的な誘致活動を行い、下記2団体の誘致活動を行った。

- ・一般財団法人日本家電製品協会より産業センター出展検討の話があり、2022年度中に基本設計を実施した。なお、実際の展示については、2023年6月に「リサイクル・ラボ（仮称）」として4階回廊廻りに設置予定である。
- ・2023年に明治ブルガリアヨーグルト誕生50周年を迎える株式会社明治に対し、それを記念するための産業センター出展を提案した。

補助金を活用した展示室リニューアル計画は、出展団体との協議の上2024年度に実施することで調整した。

#### 2) 2022年度展示更新

助成金の活用や直接の依頼等により、新設・リニューアル含め3つの展示更新を行った。

- ・一般社団法人日本宝くじ協会の助成事業として、5階H室に、目には見えない「音」を科学によって可視化した、新展示室「サウンド」を2月14日より公開した。
- ・「アトミックステーション ジオ・ラボ」シアターエリア（原子力発電環境整備機構）が、2023年1月からリニューアル工事により閉室となり、2023年3月31日にオープンした。閉室期間中は、展示室内にあった展示の一部を5階C室に移設し、サテライトエリアとして特設展示室として開室した。
- ・4階回廊廻りにある、日本鉱業協会による産業センター出展「メタル・ファクトリー」では、非鉄金属業界のカーボンニュートラルに対する取り組みを紹介する、展示の部分リニューアルを行い2023年2月17日より公開した。

### ②特別展の開催

2022年度JKA補助事業の一環として、「気象・防災」をテーマとした特別展「学ぼう！気象⇔防災」を開催した。年間を通じて大きく3回に分けて以下のように実施した。

- ・「学ぼう！気象⇔防災～北の丸気象講座」の開催  
「気象」をテーマに、気象を紹介するミニイベントを6月18日から26日まで、5階特設会場で開催した。期間中の来場者は4,123人であった。
- ・「学ぼう！気象⇔防災」の特別展の開催  
「気象及び防災」をテーマに、展示や特別講演などで構成した特別展を8月6日から8月21日まで、2階イベントホールで開催した。期間中の来場者は10,611人であった。
- ・「学ぼう！気象⇔防災～北の丸防災講座」の開催  
「防災」をテーマに、防災を紹介する展示と耐震、非常食、気象キャスターによる防災教室で構成したイベントを12月17日から25日まで、5階特設会場で開催した。会期中の来場者は4,435

人であった。

### ③「ダメして生き延びる昆虫の擬態～海野和男昆虫写真展～」の開催

文化庁「コロナからの文化芸術活動の再興支援事業」の補助金を活用し、夏の企画展として7月21日から8月30日まで、4階サイエンスギャラリー、5階特設会場で開催した。

### ④コロナで休止中のイベントの復活、既存および新規顧客のイベントの誘致

内容企画含む新規イベントの実施、コロナ禍で休止していたイベントを復活させて実施した。

#### 1) 新規イベント

##### ・文部科学省委託事業

「光・量子飛躍フラッグシッププログラム(Q-LEAP)」量子情報処理技術領域／国立研究開発法人理化学研究所「ようこそふしぎな『量子』の世界へ～はじめての一步！学んでみよう。量子コンピュータ～」(8月11日～13日)

##### ・三菱商事株式会社：「MC SCIENCE SCHOOL」(8月16日)

##### ・株式会社サイエンスエンタテインメント

「光るベッターりんスライムを作ろう！」(11月20日・3月26日)

「てづくり・かんたん！バスボム」(12月25日・2月12日)

##### ・小梁修氏(友の会講師)「数楽教室 立体パズル『キューブ26ミニ』！」(3月25日)

#### 2) コロナ禍で休止していた復活イベント

##### ・一般社団法人日本パズル協会協力「東京パズルデー2022 in 科学技術館」(11月12日、13日)

科学技術館 謎解きチャレンジ！『湯浅博士の隠された謎3』(11月14日～27日)

文化庁「コロナからの文化芸術活動の再興支援事業」の補助金を活用して実施した。

##### ・キャンドル工作等(12月24日～27日、1月4日～9日、3月25日・27日～31日)

### ⑤科学技術館オリジナルの展示物を制作する

科学技術館運営部技術グループを中心に、低予算で科学技術館オリジナルハンズオン展示物を製作した。

1) 凹凸のある物体を回転させ、ストロボ発光を当てて見ると凹凸が動いているように見える、自主制作展示「ブルーム」が完成し、5階オリエンテーリングで8月1日から公開した。

2) 砂箱の砂に山や谷を作ると、高低に合わせて色が変わり等高線や池が現れる「ARサンドボックス」を製作し1月から試験運用を実施した。しかしながら、スタッフ不在による常時運用は難しいと判断し、特別展等での活用を引き続き検討する。

### ⑥ワークショップのクオリティ向上

実験スタジアム「光と色のじっけん室」にWebアプリによる実験を組み込み、来館者の体験の質向上と体験機会の拡大をはかった。また各展示室の新任スタッフに対してはプログラムのクオリティを維持するための適切な研修を行った。

## (2) 広報活動

科学技術館の情報発信と来館者増に向けて、下記の広報活動に取り組んだ。

### ①入館者動向の分析

- 1) 来館した学校団体に、回答して持参すると小学生1名分入館無料になるアンケート用紙（有効期限4/30）を配布し、回収結果（利用状況）を集計した。集計結果は、無料入館を利用した小学生が375人、有料である付き添いの大人が551名、同小学生167名、同その他（4歳未満等）65名となり、無料入館利用の小学生が約1.5人分の大人（有料入館）を連れて来館した結果が得られた。
- 2) 8月から販売を開始した前売券について販売数と利用者数の割合を分析した。

### ②SNSなどのインターネットツールを活用した広報活動

- 1) 経営企画室と連携し、特別展やイベント開催、館内新展示の案内、クラウドファンディングの紹介など、TwitterをはじめとするSNSによる情報発信を積極的に行った。同時に、広報媒体であるPR TIMESを活用したプレスリリース等を行った。
- 2) 7月には、科学技術館HP上で、「学ぼう！気象⇄防災～北の丸防災講座」、「ダメして生き延びる昆虫の擬態～海野和男昆虫写真展～」等夏休みの特別展やイベントを総合的に紹介するページを作成して公開した。
- 3) 科学技術館HPでは、科学技術館の概要、展示内容、入館方法等の紹介だけに留まらず、実験演示スタッフ募集案内など、人材募集案内の告知などでも活用した。

### ③ステークホルダーと連携した広報活動の展開

クラウドファンディング実施に際し、科学技術館にゆかりのある著名人などに応援コメント執筆の依頼、またSNSを通じた情報の拡散を依頼し、連携した広報活動を実施した。

### ④入館者誘致活動

学校団体誘致のため、7月にイベント案内チラシと同時に、学校団体誘致のパンフレットを首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城）の小中学校に送付した。

## (3) 新規事業への取り組み

新規事業として、クラウドファンディングの実施、助成金活用による調査研究、シンラドームの新作上映番組の制作などを行った。

### ①クラウドファンディングの実施

5階「FOREST」のスポンサー撤退に伴い、新しい収益源として12月15日から2月17日までの約2か月間クラウドファンディングを実施し、目標額を超える支援が集まった。

### ②助成金活用による調査研究

公益財団法人新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究助成事業の助成金を活用し、「コロナ禍の科学館でのSDGs等社会的テーマの科学技術教育の手法に関する調査研究」をテーマとし、SDGsやカーボンニュートラルなどを扱った国内の科学館での展示や教育の事例調査を行った。また、科学技術

館の来館者のSDGsやカーボンニュートラルなどに対する意識調査を、毎月2回土曜日にシンラドームで開催する科学ライブショー「ユニバース」のプログラムで実施した。

### ③JKA補助事業による「気象・防災」をテーマとしたイベントの開催

12月17日から25日まで開催されたイベント、「学ぼう！気象 ⇄ 防災 ～北の丸防災講座」に併せた気象と防災に関する約20分の映像「学ぼう！気象 ⇄ 防災 ～雲のかたちから災害を知る～」を制作し、12月21日よりシンラドームの新しい番組として、上映を開始した。

## 1-2. 特別展・イベント等の開催

夏休み春休みなど学校休暇期間を中心に、さまざまなテーマの特別展、自主イベント、企業・団体等との連携イベント、共催イベントなどを開催した。

### (1) 特別展の開催

- ①夏休み特別展「学ぼう！気象⇄防災」 8月6日～21日
- ②「ダメして生き延びる昆虫の擬態～海野和男昆虫写真展～」 7月21日～8月30日

### (2) 自主イベントの開催

- ①実験工作教室「キラキラ偏光板ストラップ」 11月26日
- ②実験工作教室「にじ色の光が見える？ニジカメを作ろう！」 2月11日

### (3) 社会貢献事業に関心の高い企業や団体と連携したイベントの開催

#### ①「夢・化学-21」委員会

- 1) 『なぜなに？かがく実験教室「植物の血管をみてみよう！」』 5月28日
- 2) 『なぜなに？かがく実験教室「光の不思議」』 7月9日
- 3) 『なぜなに？かがく実験教室「抽出の原理を知ろう」』 9月10日
- 4) 『なぜなに？かがく実験教室「カイロを作ってみよう」』 11月12日
- 5) 『なぜなに？科学実験教室『消せる書道液の秘密』』 1月21日
- 6) 『なぜなに？科学実験教室『身の回りのものを利用して電池をつくろう！』』 3月11日

#### ②自動車リサイクル促進センター

「第5回「クルマのリサイクル」作品コンクール入賞作品展 6月2日から30日

#### ③特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21

「親子バイオ実験教室」 6月12日

#### ④一般財団法人石炭フロンティア機構

「石炭実験教室」 8月3日～4日

#### ⑤大妻女子大学

- 1) 「夏休み数楽教室、自由研究お助け隊」 8月12日～13日
- 2) 『小学校理科授業づくり支援研究会「星の学習」』 12月1日
- 3) 「天体観測教室」 12月3日

#### ⑥文部科学省委託事業

「光・量子飛躍フラッグシッププログラム(Q-LEAP)」量子情報処理技術領域／国立研究開発法人理学研究所「ようこそふしぎな『量子』の世界へ～はじめの一步！学んでみよう。量子コンピュータ～」8月11日～13日

#### ⑦三菱商事株式会社

「MC SCIENCE SCHOOL」 8月16日

#### ⑧中外製薬株式会社

- 1) 車椅子児童を対象とした実験教室（イカの解剖） 8月23日
- 2) 『女の子のための実験教室「カラフル！信号反応～液体をフリフリして実験しよう～」』  
12月3日

#### ⑨株式会社サイエンスエンタテインメント

- 1) 「光るベッターんスライムを作ろう！」 11月6日・23日、3月26日
- 2) 「てづくり・かんたん！バスボム」 12月25日、3月12日

#### ⑩全国児童生徒地図優秀作品展連絡協議会・国土交通省国土地理院

「全国児童生徒地図優秀作品展」 1月13日～17日

#### ⑪国土交通省、一般社団法人建設広報協会

『「国土交通Day」図画コンクール・フォトコンテスト、河川愛護月間「絵手紙」入賞作品展示会』  
2月9日～15日

#### (4) 共催イベントの開催

##### ①NHK エンタープライズ

「ロボコン体験ミュージアム 2022-23」 7月23日～31日

### 1-3. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積されたコンテンツを他施設などに貸出し、運営支援を行う活動を実施した。

#### (1) 巡回展示物の貸出し

10 テーマある巡回展示物の中から、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」の6つのテーマの展示物を、9箇所の施設に貸出しを行った。

### 1-4. 他館の運営

科学技術館の運営経験と実績を基に、埼玉県指定管理者として所沢航空発祥記念館の運営管理を担い、科学及び技術の普及啓発と人材育成に貢献する事業を実施した。

## 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉县委託事業）

わが国初の飛行場として1911（明治44）年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっている。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993（平成5）年に同公園内に建設された。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・施工監理等を担い、その後開館後29年間運営に携わってきた。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあっている。

### ■入館者状況

2022年度の入館者数、前年度との比較

	入館者数	うち大型映像館
2022年度	165,021人	35,052人
2021年度	144,941人	30,865人
前年度比	113.9%	113.6%

#### (1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常的な入館者対応及び展示解説・実演等を行なうとともに、展示の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施した。
- ②開館から約30年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行った。
- ③埼玉県との連携のもと、展示館等に新しい実機を導入するとともに、県による設備交換工事計画の実施に協働した。  
埼玉県との連携協働のもとに展示及び建物・設備の更新について中期計画策定の取り組みを始めた。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動の為、現有資料の整理・棚卸を行った。

#### (2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施した。
- ②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマだけでなく、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たした。
- ③まだ大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会など無料上映会を適時開催した。

#### <第1期> ※前年度からの繰越延長上映

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1)-1 「銀河鉄道の夜」       | 期 間： 4月1日～3日 |
| 1)-2 「イルカのドビーと虹色の海」 | 期 間： 4月1日～3日 |
| 1)-3 「くまのがっこう」      | 期 間： 4月1日～3日 |

<第2期>

- 2)-1 「アマゾン・アドベンチャー」 期 間： 4月5日～6月30日  
2)-2 「大恐竜時代」 期 間： 4月5日～6月30日  
2)-3-1 「Atteindre le ciel 空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」  
※「天までとどけ」との同時上映 期 間： 4月5日～22日  
2)-3-2 「天までとどけ Reach for the sky」 ※「空をめざして」との同時上映  
期 間： 4月5日～22日  
2)-4 「名探偵コナン 探偵たちの星月夜（スターリーナイト）」  
期 間： 4月23日～5月8日

<第3期>

- 3)-1 「クレヨンしんちゃん～宇宙からの来訪者～」 期 間： 7月1日～9月30日  
3)-2 「シーライオン～おひげのオットーとアシカのかぞく」 期 間： 7月1日～9月30日  
3)-3 「ダイナソーDX～パタゴニア・巨大恐竜の謎～」 ※夏休み特別上映  
期 間： 7月16日～8月28日

<第4期>

- 4)-1 「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロントNEXT」 期 間： 10月1日～12月28日  
4)-2 「スーパーパワードッグ」 期 間： 10月1日～12月28日  
4)-3 「宇宙交響曲 138億年をめぐる旅」 期 間： 11月26日～12月28日

<第5期>

- 5)-1 「アポロ11 ファースト・ステップ版」 期 間： 1月2日～3月31日  
5)-2 「かいけつゾロリ うちゅうの勇者たち」 期 間： 1月2日～3月31日  
5)-3-1 「Atteindre le ciel 空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」  
※「天までとどけ」との同時上映 期 間： 1月5日～2月17日  
5)-3-2 「天までとどけ Reach for the sky」  
※「空をめざして」との同時上映 期 間： 1月5日～2月17日  
5)-4 「室屋義秀 BEYOND THE EDGE2022 エアレースチャンピオンの夢のつづき」  
期 間： 2月18日～3月17日  
5)-5 「しまじろう と フフ のだいぼうけん」 期 間： 3月18日～31日

<その他 特別上映>

第63回科学技術映像祭入選作品無料上映会

- 6)-1 『『おおすみ』 日本の宇宙開発の歩み 軌跡 ～TRAIL～』 期 間： 9月17日～19日  
6)-2 「日本のチカラ とうちゃんは茅茸師 ～北アルプスの麓の村の1年～」  
期 間： 9月23日～25日

#### ④大型映像館連動イベント

展示館と大型映像館を連動させた参加型イベントとして、館オリジナルのねりつぶしパズルを開催した。館内を巡りながら、飛ぶことにまつわる‘はじめて’を探して楽しく学ぶことができる構成とし、回答者ノベルティは、やはりオリジナルの「二宮忠八考案 玉虫型飛行器のペーパークラフト」とした。 期 間： 7月16日～12月28日

#### (3) 特別展等の開催

①YS-11の初飛行60周年を記念して、YS-11についてパネルや収蔵資料で紹介する特別展「～昭和からの遺産・戦後初の国産旅客機～ YS-11 初飛行60周年展」を展示室にて開催した。関連イベントとして屋外展示YS-11型旅客機のライトアップを実施した。

期 間： 9月18日～2023年3月19日

「日本の宇宙開発” はじまり” から” いま” 」と題し、リュウグウサンプルのレプリカと隕石の展示や映像、コラムで紹介する企画展を開催した。 期 間： 7月21日～2023年3月31日

②航空に関する分野の企業や教育機関より協力を得て、実機導入の計画・実施を通して、ステークホルダーとの関係強化を図った。

#### (4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底した。

②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めた。

③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員定期巡回、機械警備等、保安と安全管理に努めた。

④年2回の全体消防訓練のほか、計画の見直し改善を繰り返すとともに最新の情報を共有した小規模の防災・消防訓練を随時実施した。

#### (5) 連携活動

①埼玉県、及び所沢市など周辺の自治体や関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に実施した。

②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図った。

③国内の航空系博物館同士の情報交換をもとに、展示収蔵資料の貸出しを行い、国内の航空系博物館の展示活動への協力を実施した。

#### (6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大防止に繋がる各対策の徹底をはじめ、状況変化への対応力と柔軟性を心掛け、施設として最大限の目的達成に至るよう努めた。



また、各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋がった。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には固定休館日である月曜日も開館とする等、来館者分散と利便性向上を図った。

## (7) 広報活動

- ①余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力して園内広報を実施した。
- ②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、近年利用が増えているスマートフォンやモバイル端末への効果的な対応を目的に全面更新したウェブページを積極的に活用し、館の基本情報やアクセス情報、そして展示館及び大型映像館の案内情報や最新情報の発信に努めた。
- ③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のコミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図った。
- ④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、国内の航空系博物館とも連携し、広報物の相互配架を実施した。

## (8) 普及啓発活動

### ①飛行機工作教室の開催

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室を開催した。

9回/年、延べ参加者数 150人：7月から 2023年 23月（1回/月開催）

### ②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学1年から6年生を対象とした「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた工作・自然観察など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供した。

開催教室数：10回/年、延べ参加者数：148人

### ③ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営した。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に開催し、加えて既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促した。

## (9) ボランティア活動の充実

記念館の運営を支援するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、格納庫の特別公開のための準備活動等を実施した。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより、航空への興味・関心に繋ぐとともに地域との連携を深めた。

## (10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

### ①ミュージアムショップ

ミュージアムショップ店内は狭小であるため社会的距離を確保することが難しいことから、店舗前のエントランスロビーに商品棚を展開し運営した。

### ②カフェレストラン

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した営業とする為、店内飲食を避けテイクアウト専門を主としつつ、イートインの利用を再開して営業した。

## (11) その他の活動

①開館以来 29 年を経過したことで老朽化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕等を行い品質の維持向上を図った。また、埼玉県との相互連携のもと展示リニューアル計画に繋がる計画の策定に努めた。

②埼玉県による「施設の長寿命化計画」を協働して推進した。

③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、イベントの共同開催を実施した。

④これまで 29 年間の記念館運営を基盤として 2023 年度から 5 カ年の次期指定管理の受託に努めた。

## 1-5. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営ノウハウを基に、他施設の保守点検、企画開発業務を実施した。

### (1) プレアデス事業による保守、運営支援

サイエンスヒルズこまつ 3D スタジオ保守点検業務(小松市受託事業)は、7月に保守点検を実施し、12月に業務が完了した。

### (2) 企画開発業務

大東文化大学は 2023 年設立 100 周年を迎え、大学で所蔵する書道、中国の漢籍などを展示するミュージアム設立構想があり、基本設計を計画するための類似施設調査業務を実施した。

## 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

## 2-1. サイエンス友の会の活動

友の会の制度を新しくした「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」を立ち上げて、7月に1周年を迎えることとなり、継続入会および新規入会の増を図るために、9月末まで入会特典キャンペーンを実施した。

生物・物理（技術）・化学・地学・天体気象をテーマにした、小学生を対象とした実験イベントを中心に、未就学児と保護者を対象にした低年齢向けや中学生から大人向けといった年齢層を限定したイベント、企業・団体・大学の協力によるゲストイベント、シンラドームを使った特別上映会などの各種プログラムを、4歳～大人までのメンバーを優先参加として、4月～翌年3月にわたって計63回開催し、延べ940人が参加した。

なお、2022年度の年間パスポートの加入総数大人457名、中高生8名、子ども567名の計1,032名であった。イベント応募総数は、1,427件だった。

## 2-2. 科学技術体験イベントの開催

### (1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

#### ①青少年のための科学の祭典全国大会（独立行政法人国立青少年教育振興機構助成事業）

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的とした「青少年のための科学の祭典2022全国大会」を、事前予約制による人数制限などの新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、7月30日、31日に3年ぶりに開催した。

青少年のための科学の祭典2022全国大会

会期：2022年7月30日（土）、31日（日）

会場：科学技術館 1階 催事場

出展数：47出展、来場者数（延べ）：7,778人

#### ②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する60の大会が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5大会が中止となり、55大会（うち3大会はオンライン）の開催、参加者数86,160人となった。

### (2) 少年少女創造性育成事業業務（公益財団法人市村清新技術財団 委託事業）

公益財団法人市村清新技術財団主催の「第53回市村アイデア賞」の表彰式を11月18日に科学技術館で開催するとともに、11月18日から12月4日に入選したアイデアの作品展示を行った。

また、小中学生を対象にカラーコピー機の仕組みや原理の解説と実機の分解を行う「キッズ・フロンティア・ワークショップ」を、12月10日、11日にオーテピア（高知県高知市）で、2023年3月11日、12日に科学技術館で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図って開催した。

### (3) STEM/STEAM 教育プログラムの実施

#### ①STEM 教育プログラムの実施 (ボーイング社助成事業)

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができる STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育に基づいたショー・ワークショップなどの STEM プログラム「科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ ～飛べ! 跳べ! 翔べ!～」を、10月22日及び2023年3月18日、25日に科学技術館で開催した。

#### 科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ

10月22日	飛行のヒミツを解き明かせ!? ～でんじろう先生と学ぼう わくわく飛行実験!!～ (協力: 有限会社米村でんじろうサイエンスプロダクション)
	飛べ! 試してみよう ～航空力学への挑戦～ (協力: 日本大学理工学部 伊豆原月絵教授+ミュージアム・アソシエイツ)
	宇宙兄さんズと月と小惑星のひみつにせまろう! (協力: 公益財団法人日本宇宙少年団)
	科学技術館 CANSAT 遠隔探査ミッション ～未知の惑星に挑め～ (協力: 東京理科大学理工学部木村真一教授+株式会社宇宙の学び舎 seed)
2023年 3月18日	飛べ! 試してみよう ～航空力学への挑戦～ (協力: 日本大学理工学部 伊豆原月絵教授+ミュージアム・アソシエイツ)
	宇宙兄さんズと月と小惑星のひみつにせまろう! (協力: 公益財団法人日本宇宙少年団)
3月25日	遠隔探査ミッション ～未知の惑星に挑め～ (協力: 東京理科大学理工学部木村真一教授+株式会社宇宙の学び舎 seed)

#### ②放射線教育に関する STEAM 教材の開発 (一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォーム助成事業)

一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォームが実施する「創造的・俯瞰的学びを実現する STEAM 教材の開発と高度化」事業に、「現代的諸課題と放射線教育」をテーマとした STEAM 教育を提案して採択されたことから、放射線に関する STEAM 教育の授業モジュール基本案を作成し、12月2日に福島県福島市立松陵中学校、12月8日、9日に相馬市立中村第一中学校でデモ授業を行った。その結果をフィードバックして2023年2月に授業モジュールの最終案を構築した。

### 2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

#### (1) 日本生物学オリンピック 2022 の開催、第 33 回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

##### (国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動であり、国内大会「日本生物学オリンピック 2022」を開催するとともに、国際大会「第 33 回国際生物学オリンピック」への日本代表派遣を行った。

## ①日本生物学オリンピック 2022 の開催

「日本生物学オリンピック 2022」の参加申込受付 (Web) を5月1日から31日まで実施し、予選は、新型コロナウイルスの影響により7月17日にCBT (Computer Based Testing) で実施した。本選は、9月17日から19日に慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパスで、感染拡大防止対策を徹底した上で開催した。また、日本代表候補者12名を対象とした冬期特別セミナーを12月27日から29日に東京大学駒場キャンパスで実施するとともに、代表選抜試験を2023年3月19日に科学技術館で実施し、成績優秀者から2023年にUAEで開催される第34回国際生物学オリンピック日本代表4名と次点者2名を選抜した。

5月1日～31日	参加申込受付 (Web)
7月17日	予選をCBTで実施 (参加者: 2,938名)
9月17日～19日	本選を慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパスで実施 (参加者: 予選上位者80名)
12月27日～29日	日本代表候補者 冬期特別セミナー (参加者: 代表候補者12名)
2023年3月19日	代表選抜試験 (参加者: 代表候補者12名)

## ②第33回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

第33回国際生物学オリンピック 2022 アルメニア大会 (IBO2022) が7月10日から18日にアルメニア共和国の首都エレバンで開催され、62か国・地域から237名が参加した。日本からは、2021年度に開催された日本生物学オリンピック 2021 で選抜された日本代表4名が参加し、金メダル1、銀メダル1、銅メダル1、優秀賞1を獲得した。

3月29日～31日	第1回特別教育をオンラインで実施
4月5日	第33回国際生物学オリンピック日本代表決定のプレスリリースを実施
4月29日～5月1日	第2回特別教育を東京大学駒場キャンパス等で実施
6月18日、19日	第3回特別教育を科学技術館で実施
7月10日～18日	第33回国際生物学オリンピックに日本代表4名が参加 (金1、銀1、銅1、優秀賞1)

## 2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

### (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催 (公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業)

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動にすぐに役立つ実践的な理科実験の講習会「教員のための理科実験スキルアップ講座 ～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～」を、8月と11月の2回、科学技術館の実験工房で、参加人数を制限するなどの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図って開催した。

8月20日	10:30～12:15	<生物分野> (参加者 11名) 「葉と維管束から見た植物の体とつくり」
	13:30～15:15	<化学分野> (参加者 12名) 「金属のイオン化傾向からわかること」
8月21日	10:30～12:15	<地学分野> (参加者 10名) 「大気・気象」
	13:30～15:15	<物理分野> (参加者 11名) 「『電流回路』の落とし穴」
11月13日	10:30～12:15	<生物分野> (参加者 10名) 「ヒトの感覚器官について実験でたしかめよう」
	13:30～15:15	<化学分野> (参加者 11名) 「状態変化 昇華と凝華」
11月20日	10:30～12:15	<地学分野> (参加者 10名) 「フィールドワーク」
	13:30～15:15	<物理分野> (参加者 11名) 「境界面で生じる現象、光の反射・屈折、回折、分光」

## 2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

### (1) 第63回科学技術映像祭の開催

「第63回科学技術映像祭」の「自然・暮らし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対して50機関から78作品が出品され、内閣総理大臣賞に「NHKスペシャル タモリ×山中伸弥 超人たちの人体 ～アスリート 限界への挑戦～」(企画・製作：日本放送協会)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞2作品、つくば科学万博記念財団理事長賞1作品、新技術振興渡辺記念会理事長賞1作品、科学技術館館長賞1作品を決定し、3月11日にプレスリリースを行った。

また、科学技術週間の一環として、4月21日、22日に入選作品発表会、4月22日に表彰状授与式・受賞記念スピーチを、科学技術館において新型コロナウイルスの感染症拡大防止対策を徹底して開催した。入選作品は、科学技術館及び全国の科学館等(全15館)において上映会を行った(上映会観覧者数189,298人(2023年3月31日現在))。

### (2) 第64回科学技術映像祭の作品募集及び審査

募集対象にSTEAM教育に関する作品も加えて12月1日から2023年1月25日に「第64回科学技術映像祭」の参加作品の募集を行い、44機関から94作品が出品され、内閣総理大臣賞をはじめとする入選作品13作品(ダブル受賞を含む。)を決定し、2023年3月16日にプレスリリースを行った。

## 2-6. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図った。

### (1) 放射線に関する教職員研修及び出前授業の実施（文部科学省委託事業）

文部科学省の「放射線に関する教職員研修及び出前授業実施事業」を受注し、学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修と児童生徒等を対象とした出前授業を、新型コロナウイルスの感染症拡大防止対策を徹底して実施した（教職員研修及び出前授業実施件数 201 件）。

また、全国研修会として、12月27日、28日に科学技術館で「放射線教育コアティーチャー研修会」を開催した。

### (2) 放射線教育を支援するための情報提供事業の実施

放射線教育を実施する教員を支援するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための各種情報を提供する放射線教育支援 Web サイト「らでい」の運用を行っており、児童生徒が利用しやすいようにキッズページのデザインを更新した。

### (3) エネルギー・放射線教室の開催

7月30日、31日に開催された「青少年のための科学の祭典 2022 全国大会」においてエネルギー・放射線に関するブース出展を行うとともに、青少年のための科学の祭典地方大会や各地の科学館等において、エネルギー・放射線教室を9回実施した。

### (4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい教材を募集する「2022 年度放射線教材コンテスト」を実施し（応募校数：11 校、応募作品数：40 件）、12月28日に科学技術館で「放射線教育発表会」として受賞作品の発表会と表彰式、被災地の教職員による講演会を実施した。発表会は、新型コロナウイルスの感染症拡大防止対策を徹底し、受賞者による対面による実演（オフライン）とその様子を日本全国の教育関係者の方々にオンラインで配信するハイブリッド形式で開催した。

### (5) SDGs 教育プログラムの実施

SDGs に取り組むフォスター電機株式会社の協力を得て「スピーカー工作による教育プログラムのモデル化推進事業」を実施した。7月24日にヘッドホンの工作教室「フォステクス工房 ヘッドホン設計者と作ろう！あなただけのお気に入りのサウンドを組み立てよう」を実施するとともに、7月30日、31日に開催された「青少年のための科学の祭典 2022 全国大会」においてスピーカー工作のプログラム「スピーカーで、音の仕組みについて考えよう！」を実施した。また、昭島市教育委員会と連携して昭島市内の中学校においてスピーカー工作の出前授業を実施することとして、11月26日に科学技術館で工作教室による試行を行い、12月、2月、3月に出前授業を実施した。

### (6) エネルギー教育活動を支援する事業の実施

資源エネルギー庁委託事業の「令和4年度エネルギー需給構造高度化対策に関する調査等事業（エ

エネルギー教育推進事業)」に株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズと協力して提案書を提出したが、結果は不採択であった。

### 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

7月30日、31日に科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典2022全国大会」の来場者を対象として、来場者の属性、来館のきっかけ、参加の印象、科学の祭典に対する印象、運営面の課題を知ることを目的として、アンケート調査を行いました。広報面で参考になる結果として、情報入手経路を分析したところ、チラシやポスターなど従来からの広報手法が根強い反面、インターネットサイトや科学技術館ホームページの割合も同程度に大きく、紙媒体・ネットメディアが混在し、経路の多様化が見られました。

また、主に広報面の課題を知ることを目的として、8月28日、及び、30日に、科学技術館の入館者を対象としたアンケート調査を行いました。この調査結果から、インターネットを情報入手経路とする来館者の比率が近年増加しており、今後はSNSを含むインターネットによる発信情報が来館者の情報源の柱の一つとして期待されていることが分かりました。

## II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業

1. カスタマーサクセス（ビジネスモデルの改善、競争力の強化、よりよい労働環境）をもたらすサービスの提供に注力する。
2. リモートワークの利点を活かし活動対象エリアを拡大する。従来顧客先常駐でなければできなかった案件に対し、リモートワークでの活動を提案し受注する。また、エリア戦略として既存顧客の各地の支店等あるいは地理的に近接していない見込み顧客を開拓し、受注提案活動を実施する。
3. 公益部門との連携を通じシナジー効果を図る。
4. 顧客との協業として、新規事業・商品を開発するための提案・企画に係る活動を実施する。

実施した主な業務は次のとおりである。

### 1. 情報システムの設計開発

#### (1) 学校法人産業能率大学

受講管理システム改修、学通教システム Edge 動作検証対応、旅費精算システムサーバー移行設定作業、謝礼システムサーバー移行設定作業、SANN Information Services の修了証 PDF ダウンロード機能の追加改修、公開セミナーシステム Edge IE 対応、【標準テストシステム】システム改修（機能追加）、



2022年度社会人システムサーバのリプレースに伴う案件管理・案件教材・公開セミナー・実績照会システムの環境構築、学通教システム 各種申込の画像およびタイトル変更対応、SIS 修了証 PDF サイズ変更

**(2) 株式会社イセト**

kodak 受発注管理システムプログラム保守、MUTB 様モニタリングレポート作成システム MUFG デザインマニュアル改訂に伴う提案書等のフォーマット変更対応、MUTB 様【法改正】加入可能年齢の引き上げ対応、MUTB 様商品ガイドブックにおける除外商品の表示方法変更、MUTB 様商品ガイドブック作成システム MUFG デザインマニュアル改訂に伴う提案書等のフォーマット変更対応、PS-navi\_EOS に係る対応、ツール申込システム Edge 対応、J-PEC 運用保守しんきん iDeCo 対応、J-PEC 個人型（トレースメール配信対応）、NRK 加入者レポート WEB システムの改修、個人型 SK CC 取込み処理改修、J-PEC ツール申込みシステムパスワード強化対応

**(3) 一般財団法人日本環境衛生センター**

環境省ホームページ内環境測定分析統一精度管理調査ページ作成業務

**(4) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構**

資産管理システム、「役員状況表入力システム」のバージョンアップ作業

**(5) 株式会社電通国際情報サービス**

SCRUM スペック図 M365 対応、SCRUM Ver. Up および Linux 移行

**(6) 一般社団法人電子情報技術産業協会**

JEITA 自主統計調査のデータ入力と集計処理業務、DISH 統計 DB システム、ソリューションサービス市場の状況調査の集計処理業務、センサ・グローバル状況調査の集計処理業務

**(7) 株式会社電力計算センター**

ELECTREE 機能増強、XTAP を利用する送電線雷事故率計算プログラム 新 LORP の開発その 2、リーダ定数計算プログラムの作成

**(8) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館**

新日本古典籍総合データベース次期検索 API 等作成 一式

**(9) 一般財団法人電源地域振興センター**

原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システム Edge 調査・対応、原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システムサーバーリプレース対応

**(10) 株式会社片平新日本技研**

次世代舗装修繕業務に係る企画書作成開発

**(11) 株式会社オリエンタルコンサルタンツ**

環境予測プログラムの作成

**(12) 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会**

JBMIA 統計集計業務

(13) 第一三共株式会社

補助金データのフォーマット変更に伴う環境変更作業

2. 情報システムの運用サービス

(1) 学校法人産業能率大学

CSL ナビシステム運用、債権管理システムの運用支援業務、派遣利益管理システムの運用支援業務、通信研修利益管理システムの運用支援業務、謝礼システムの運用保守業務、旅費精算システム・支払系サブシステムの運用保守業務、案件管理システム、案件教材手配システム、公開セミナーシステム、実績照会システムの運用支援業務、「会計システム」運用・保守業務、Web受講者支援システム、受講管理システム運用業務、SISWEB システムサービスの運用業務、学生向けWeb サイトサービスの運用業務、回答管理システム運用

(2) 株式会社イセト

金融系 Web システム運用業務

(3) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

資産管理システム運用保守

(4) 中外製薬株式会社、オムロン株式会社

LMS(Learning Management System)の運用・保守業務、SIPサイト運営・保守業務

(5) 通信教育団体

受講状況・成績報告支援サービス

(6) 職業訓練法人日本技能教育開発センター

自動添削システム保守サポート

(7) 株式会社判例時報社

業務システム運用支援、ホームページの管理等

(8) 株式会社電力テクノシステムズ

横須賀地区電力データ自動収集システムの定期点検

(9) 一般財団法人電源地域振興センター

原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システムの運用支援業務

(10) 公益財団法人 日本書道教育学会

システム保守サポート業務

(11) 一般社団法人 日本経営協会

通信教育事業支援システムLBS S/Tの運用・保守業務

(12) 一般財団法人 全国科学博物館振興財団

ネットショップ運用業務

### Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント他。地階のサイエンスホールは、週末を中心にエンターテインメント関連の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、事務棟5階、6階の会議室も貸し出している。当事業は、収益事業として運営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、年度後半から徐々に回復基調に乗せた。得意先を中心に各施設の日程調整を行い、顧客満足度を向上させることに繋げた。

#### ■各会場利用件数

件数/年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
催事場利用件数	72	24	36	51
ホール利用件数	123	38	93	106
会議室利用件数	310	113	136	203

### Ⅳ. 補助を得て実施する事業

#### 1. 「気象・防災をテーマとしたイベント及び特別展開催による普及啓発及び生活向上への取組」

(公益財団法人 JKA ケイリン補助事業 (自園舎等機械振興事業))

「気象・防災」をテーマとしたイベントの開催

(詳細は、P9- ③JKA 補助事業による「気象・防災」をテーマとしたイベントの開催を参照)

### Ⅴ. 助成を得て実施する事業

#### 1. 見えない「音」を科学によって可視化する体験装置の整備 (一般財団法人日本宝くじ協会)

新展示装置「サウンド」を公開

(詳細は、P6- 2) 2022年度展示更新 を参照)

#### 2. 青少年のための科学の祭典 2022 全国大会 (独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金)

「青少年のための科学の祭典」の開催

(詳細は、P16- 2-2. - (1) - ①青少年のための科学の祭典全国大会を参照)

#### 3. 教員のための理科実験スキルアップ講座

(公益財団法人東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発事業)

教員のための理科実験指導育成講座開催

(詳細は、P19－ 2-4. － (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催を参照)

#### 4. 「コロナ禍の科学館での SDGs 等社会的テーマの科学技術教育の手法に関する調査研究」

「コロナ禍の科学館での SDGs 等社会的テーマの科学技術教育の手法に関する調査研究」

(詳細は、P9－ ②助成金活用による調査研究を参照)

－以 上－

